



諏訪森だより



駅舎・まち・ひとびと

新春の想い



平成二八年、明けましておめでとうございます。お屠蘇で新年を祝い、お雑煮を頂き、おせち料理を味わうというお正月風景は日本の伝統です。お正月休みは一家で海外に行くというご家庭もあります。お正月なんか面倒だから普段と変わりなくというご家庭もあるかも知れません。お雑煮は京・大阪の白味噌仕立てというお宅が多いと思いますが、お国自慢のお雑煮でふるさとのお正月を楽しむご家庭もあります。

昔は、お正月の三日はお店がお休みで、家庭では炊事することもなく、ゆつくりして羽根突きやカルタ遊びや双六で過ごしたり、お年始のご挨拶に行ったり来たりというのが普通でしたが、いつのほどからかスーパーなどが元日から営業するようになり、食事を用意しておくという必要は無くなりましたが、逆に、できあがったおせち料理をお店で買うというかたちが一般的になってきました。

おせち料理の中身は、数の子、ごまめ、黒豆、栗きんとん、伊達巻き、昆布巻きなどに、里芋、くわい、人參、蓮根などのお煮染めというのが定番ですが、特に大阪では棒鱈を食べました。最近デパートなどで売りに出しているおせち料理は品数が多く、これがおせち料理かというものも入っています。豪華で、いくらやローストビーフが入っていて、フォアグラがあった

り、キャビアもあります。中には堂々と「おせちらしくないおせち」と名乗っているものもあります。

昔習った物理学に、エントロピー増大の法則というのがありました。このエントロピーというのは物が整理されている状態を表すもので、物理学だけではなく、情報科学などでも使われている概念ですが、要するに、物事はどんどん複雑になって行き、決して単純な方向に戻るということは無いという法則です。シンブルライフが求められています。おせちの世界はますます複雑化しています。

一月八日に諏訪ノ森駅前の白い工事現場防護壁に駅舎の説明看板が設置されました。西区自治連合協議会「文化の向上」部と西区で作成取り付けたものです。特定非営利活動法人浜寺諏訪森を考える会が依頼を受けて文案と写真などの資料を提供しています。

この諏訪ノ森駅舎が建設されたのは大正八年で、その頃から駅周辺に住宅が建ち始めて、駅前通りにはお店もボツボツと出来て、だんだん商店街になって行きました。現在、駅前通の中央部に残っている建物はその当時に建てられたものです。よく見ると、二階の看板の裏側には、当時の銅張りの壁とうだつが残っています。それまでほとんど人家のない寂しい街道筋に、鉄道が出来て、駅が作られて次第にまちに成長したのが諏訪森です。しかも、駅の名前が先に出来て、その駅の名前が二十年後にまちの名前になりました。

諏訪ノ森駅舎は小さな建物ですが、このまちが出来た核だったので。雪の結晶、真珠の玉、コンペイ糖などと同じようにこのまちが育ったのです。新しい看板は、この思いを込めて作りました。看板の向こう側では仮線工事の準備が進んでいます。そこから、また、新しいまちの姿が浮かび上がってきます。

NPO法人浜寺諏訪森を考える会の日誌

1. 11/24 第10回理事会開催
3. 12/22 第11回 理事会開催
4. 12/12 クリスマスイルミネーション開催

南海本線(堺市)連続立体交差事業

南海本線の高架化の歩みと現状

1 高架工事完成区間

南海本線は、難波駅から和歌山市駅までの64.2kmで運行しています。そのうち、難波駅から天下茶屋までは戦前から高架になっていました。

戦後に難波から石津川の北岸までの高架化が順次進められて1993年に完成しました。また、翌1994年には岸和田駅が高架駅になりました。さらに、貝塚駅と二色浜駅間の近木川周辺や空港線が分岐する泉佐野駅周辺の高架化が2008年までに完成しています。その後、松ノ浜駅から泉大津駅を通り大津川までの区間は2011年に高架になりました。

2 高石市内区間の高架工事

現在高架工事が進行しているのは、石津川から高石市駅の南側までの区間で、北側が堺市内の区間、南側が高石市内区間に分かれています。

南側の羽衣駅のところは、1997年に事業認可が下りて用地買収を開始し、まず、駅の西側の空き地にタクシー乗り場と駐輪場を移設しました。また、駅構内にあった商店が閉鎖されました。2006年末までに、このような準備が終わり、駅の西側に仮線敷設の土地が整備され、東側では駐輪場が移設されました。

2009年11月に上り線が仮線に切り替わり、その跡地に下りの仮線が建設されて、2011年5月に上下線が仮線を運行するようになりました。

その後、高架工事が本格化して、今の予定では本年4月から下り線が高架路線を走るようになっていきます。駅の東側には、新しい駅舎の姿を垣間見ることが出来ます。下り線の切り替えが終わると、上りのプラットフォームが建設されます。本線の上り下り線が高架線を走るようになると、最後に高師浜線の高架工事が施工されます。総ての工事は2021年末に完了する予定です。



3 堺市内区間の高架工事

最後に残る浜寺・諏訪森地域の高架工事は、これからの本番という段階になります。羽衣駅のところと比べると、8年ほど遅れての発車になります。

諏訪ノ森駅付近の当面の工事手順をお知らせします。現在は上りのプラットフォームを削って狭くして西側に仮線を通す場所を確保する工事が継続しています。これが終わると、いよいよ上りの仮線と仮プラットフォームの建設が開始されます。

この仮線の工事は南の方から始まって、まず現駅のトイレのところまでが施工されます。この時期から広場の南西の場所で仮駅の建設が始まります。

仮駅が完成すると、ここから仮線をまたいで現プラットフォームに移って電車の乗り降りが出来るようになります。

そうなると、トイレや現駅舎が使用されなくなりますので、トイレは取り壊し、駅舎は駅前広場の西の端に移されます。

そこで、一時中断していた仮線と仮プラットフォームの工事が再開して北の踏切付近まで延びて完成します。これで諏訪ノ森駅付近は、上り線の切り替えが出来るようになります。しかし、工事区間全体では三光川を渡る仮設の橋や石津川の所の路線の整備などで、もう少し時間が掛かりそうです。

浜寺公園駅では既に仮駅が完成して、1月28日からは、ここから地下道を通して上り下りのプラットフォームに出て、電車に乗り降りできるようになります。明治40年から109年間、大勢の乗客が乗り降りした赤い屋根の西駅舎は大任を果たして、駅前広場の南西部(写真の右端の位置)に移設されます。現在の駅舎が建っている場所には、上りの仮線と仮プラットフォームが建設されます。

下り線の工事内容はまだ明らかにされていませんが、下りの仮プラットフォームは、現在の上りプラットフォームを東に拡げて作られるようです。



まちの安全を考える

道路交通編

昨年末に常浜線で発生した交通事故で、一人の小学生が亡くなりました。

痛ましい事故現場には、まちの方々からのお花などが沢山供えられて哀悼の意が示されていました。ご家族のお気持ちを拝察すると、誠にお気の毒で、深くご同情申し上げます。また、このような事故は二度と起こって欲しくないという気も致します。

この事故の原因などについては公表されていませんが、事故の発生場所や周辺の状況から推察すると、小学生については、無理な道路の横断、トラックの運転手については前方不注意や通行制限という問題があったのだろうと思われれます。これは道路交通の面からの判断です。一方、道路の状況からこの事故を見ると、そこには道路の整備がこれで良いのかという問題が浮かび上がります。

事故から一ヶ月たって、お正月の松も取れた今では、この事故のことは、まちの人々の意識の中で、だんだんと薄れています。そこには、このような事故をお気の毒な事だというだけで済ませて良いのかという意識が浮かび上がってきます。このまちでは、このような痛ましい事故がそう度々発生しているわけではありませんが、何年かに一度はどこかで発生していますし、小さな事故は日常茶飯事に起こっています。そこで、この事故を一つの教訓として、まちの交通安全を根本から見直して、このような痛ましい事故が二度と起こらないようにすることが、故人への最大のご供養になるのではないかと思います。

交通安全という言葉はどこにも出て来ますし、小学校でも常に指導をされています。また、行政や自治会の活動にも折々に交通安全への配慮がなされています。しかし、事故は絶え間なく発生しています。やはり、このまちから交通事故を完全消そうという強い決意と徹底した活動が必要です。

企業にお勤めの皆さんは、どこの企業でも「安全第一」とか「安全即生産」といった標語を掲げて、企業経営の原点に安全の意識が位置づけられていることはご存じだと思います。まちの生活

でも、安全第一であることは言うまでもありません。

ここでは、まず、交通の安全について考えてみたいと思います。身近な交通というと、歩行、自転車交通、自動車の交通が上げられます。また、電車の運行に伴う踏切の交通があります。これらは道路交通というかたちで、まとめられますので、そこには道路の問題が存在します。

諏訪森付近の道路を具体的に取り上げると、常浜線や府道204号堺阪南線のような幹線道路、紀州街道、桜道、諏訪ノ森駅船尾線のような補助幹線道路とその他の一般道路に分けて考えることが出来ます。

これらの道路の自動車交通は大別すると、通過交通と地域交通に分かれます。通過交通はこのまちで乗降しない交通で、例えば津久野から常浜線を通って湾岸線に出て行く交通などです。そこでは、常浜線については南海本線・阪堺線との平面交差で渋滞が発生し、その一部が抜け道を探してまちの中に入ってきます。また、桜道から府道までの間の拡幅が遅れていて、これが、今回の交通事故の引き金になっています。また、常浜線から石津川までの間に東西の幹線道路がないために、一般道路に通過交通が入ってきます。ここでは、諏訪森神野線の建設問題があります。

このような道路には、道路整備の問題の他に、一方通行の妥当性、制限速度や通行に関する道路標識の設置状況とか照明の見直しが必要です。

自転車交通の問題も重要になっています。幹線道路では自転車の車道通行、左側通行の励行が必要です。また、夜間の燈火の整備、ヘルメット着用の徹底、交差点での徐行、一旦停止のなどと、歩行者優先の意識付けが必要です。

また、歩行者も、右側通行の励行が必要です。このように、交通規則を守ることと、それ以前にお互いに譲り合うという交通マナーの意識付けが肝要です。これらは、小学校での徹底た指導を御願ひしたいのですが、それと同時に大人がきちんとした交通マナーを身につけ、お手本を示す事がもっと大事です。

諏訪森は交通安全のまちだと誇れるように、学校、自治会、関係団体が行政機構と協働してまちの人々に働きかける事が望まれます。

事業案内

クリスマス イルミネーション 2015

12月12日にクリスマス イルミネーションを開催しました。今年は今までとは違って、幼稚園園児のワークショップを前面に押し出して、その成果を皆様に見ていただくという形になりました。もうおなじみの、地元のアーティスト園川絢也さんが、お忙しい中をボランティアで企画と演出を担当してくださいました。

今回も、地元の四つの幼稚園と保育園にご協力を頂き、それぞれの園で園児達にいくつかの展示品を作って貰いました。園川さんとNPOの会員が御世話して、園児達は、紙皿や、紙コップに思い思いの色づけをしました。また、巾1メートル、長さ10メートルの白い布地に絵を描いたり、色を塗ったり、裏側は、みんなでヨーイドンで端から端まで走って線を書いたりしました。

大きな布の作品は、諏訪ノ森駅の横の白い工事防護壁に貼り付けました。高さが2メートルで、横幅が20メートルの大きな壁画ができあがりました。この作品はお天気が良かったので15日まで展示して、通勤・通学の途上や買い物の道すがらの皆さんに見ていただきました。



12日の夜はコーヨーの東側の空き地を借りて、例年通りイルミネーションを開催しました。ここでも、幼稚園児の作品を使って、各幼稚園毎の四つのクリスマスツリーを展示しました。

昨年までは照明が不足で展示品がよく見えないという声がありましたので、今年は、照明器具を買いそろえて明るくしました。コーヨーの向かい側の壁画も投光器4台で明るく浮かび上がらせました。また、クリスマスツリーも中から外へ光が漏れるようにしましたので、その影が壁に映るという演出も出来ました。

演技としては、浜寺M-1隊のよさこいと中尾克己さんのクリスマスソングが賑やかに会場を盛り上げました。その他、酒井茂一さんのステンドグラス製品や浜寺諏訪森を考える会の写真クラブの作品店が開催されました。また、例年通り、懐かしい諏訪森風景の写真投影も行われました。

ご協力企業・団体様

イベントへの参画、便宜をご提供頂きました。

浜寺校区自治連合会
諏訪森商店会
あいあい浜寺中央保育園
諏訪森幼稚園
浜寺太陽幼稚園
船尾幼稚園
南海電気鉄道株式会社
株式会社光洋
浜寺M-1隊
その他の協力者
中尾克己様
園川絢也様
酒井茂一様

ご協力企業・団体様

ご寄付を頂きました。

近江内科
尾崎鍼灸整骨院
河面医院
北野耳鼻咽喉科院
すわのもり電器
諏訪森郵便局
武田医院
富山耳鼻咽喉科
遊
加藤内科
黒岩整骨院
星田医院
西尾株式会社
白井歯科
株式会社三井住友銀行

クリスマス メッセージ

諏訪ノ森駅の駅舎は、南海本線の連続立体交差事業で、来年には、少し西側に仮移設されます。当会は、移設後の駅舎の保存・活用に参画して、そこをまちの拠点とし、情報を発信して「ふれあいと賑わいのある、文化のかおりを感じるまち」にしたいと望んでいます。

50年ほど前には、この駅舎から五分ほど歩くと、白砂青松の浜辺に出ました。ステンドグラスに画かれている風景が目の前に広がっていました。綺麗な空気、安全で便利な日常生活、交通の便も良く、教育環境も優れていたもので、駅の周辺には、静かな住宅地が広がりました。

戦後の混乱や、経済成長の中で、このまちの住環境も変わりましたが、それでも良いまちであることには、変わりはありません。

私たちは、諏訪森が、時代の変化を先取りした、もっと素晴らしいまちになって欲しいと望んでいます。そのために、ここに住んでいる人たちが、日常生活の中で感じている素晴らしいまちの姿を、具体的に画いて、力を合わせて新しい諏訪森のまちづくりを推進出来るように、様々な切り口で、行動を起こしたいと考えています。ぜひ、浜寺諏訪森を考える会の活動に、ご理解、ご協力、ご参加を御願います。